

資料

「島しょ保健看護論」の授業評価

—講義・演習・学外演習（離島訪問）を通して—

川崎道子¹⁾ 宮地文子¹⁾ 牧内 忍¹⁾ 渡辺昌子¹⁾

要 約

本研究の目的は、選択科目「島しょ保健看護論」の授業評価を行い、授業の質向上に向け課題を明らかにする。

対象は、当科目を選択した4年次学生37人で、研究の主旨、方法、倫理的配慮を説明した。評価は、授業過程評価スケールによる講義の評価、個人レポートの記述内容である。調査に同意の得られた学生は、授業過程評価スケール33人、個人レポート37人であった。

授業は、講義、演習（事前学習）、演習（離島訪問）、演習（報告会）と段階を踏んで進められる。

講義に対する学生の評価は、平均総得点及び7つの下位尺度の平均は約8割弱であった。また、講義は、演習、離島訪問の導入としての効果があった。授業目標の学びは、「保健活動」、「島しょの定義・特徴」、「診療所活動」の順に多かった。授業段階においては、離島訪問で約7割を学んでいた。しかし、報告会での学びの記述が少ないことから、個々の担当の学習項目は深められているが、訪問離島の総合的な理解に至っていない。

本授業をさらに充実するために、各段階の授業展開の工夫、他の地域保健看護の科目の授業目標との関連性を検討する必要がある。

Key words : 授業評価、学び、授業段階、離島訪問

はじめに

本学は、沖縄県の離島過疎地域の地理的文化的特性を理解し保健看護活動を広い視野から理解するために選択科目に「島しょ保健看護論」を配置している。

当科目の授業目的は、「島しょの定義・特徴を理解し島しょの人々の生活環境・健康管理のあり方と健康問題の解決に向けた看護の役割を学ぶ」で、3つの目標、島しょの生活環境、産業、経済、教育及び保健福祉行政の現状を理解する。島しょの行政・診療所・学校における健康管理、危機管理の現状を理解する。島しょにおける看護職者の役割を理解する。に沿って授業を展開している。

まず、島しょの定義、沖縄県離島の保健医療概要等を講義し、グループで訪問離島に関する事前学習を行い、離島訪問、帰島後学内での報告会と講義・演習・学外演習の授業形態を取り入れている。しかし、これまで授業過程評価、授業目標について評価がなされていない現状がある。

大学の自己点検・自己評価は、1991年の大学審議会において法的に定められ、授業評価を組織的に実施し、授

業改善に活かすことが求められている¹⁾。

そこで、今回の目的は講義に対する学生の授業評価及びレポートの学びの分析から授業評価を行い課題を明らかにする。

研究方法

調査対象は、「島しょ保健看護論」を選択した4年次学生37人、調査時期は、2006年6月28日、調査方法は、講義終了時に、無記名自記式調査票を配布しその場で回収した。調査内容は、舟島ら²⁾の授業過程評価スケールによる講義の評価、個人レポート「島しょ保健看護論を終えて 講義・演習・学外演習（離島訪問）」の記述内容である。

同意書の得られた学生は、37人であった。しかし、授業過程評価スケールの回答者は33人、個人レポートの提出は37人であった。

舟島ら²⁾の「授業過程評価スケール 看護学講義用」は、学生と教員の相互行為である講義における授業過程（以下、講義過程）そのものに焦点をあて、学生が評価者となり講義過程の質を評価し、その結果を教員が解釈し、次の講義の改善に用いられている。評価スケールは7下位尺度から構成され、講義過程に対する学生の評価

1) 沖縄県立看護大学

視点を反映する各項目に講義がどの程度合致していたかを測定する。7つの下位尺度は、「講義過程のダイナミックと講義の意義・価値の伝達」8項目、「学生への対応」6項目、「教材の活用・工夫方法」7項目、「具体と抽象の関連と教員意見の絞り込みの程度」5項目、「内容の質と独自性」4項目、「内容の難易度と時間的ゆとり」5項目、「教員の話術」3項目の計38項目で、各項目に「1点：全く当てはまらない」から「5点：非常に当てはまる」の1～5点、総得点は38～190点とし、得点が高いほどその講義の質は高いと評価する(表1)。

分析方法は、授業過程評価スケールは下位尺度毎に平均得点を算出し、講義過程の質を評価した。個人レポート「島嶼保健看護論を終えて - 講義・演習・学外演習(離島訪問) -」は、内容から学生が「学んだ」と記述してある文章を抽出し、授業目標(以下、学習項目)ごとに分類した。また、授業段階の講義、学内演習：事前学習・中間報告会・離島訪問オリエンテーション(以下、演習)、学外演習：離島訪問(以下、演習)、学内演習：報告会(以下、演習)で分類した。今後の授業展開の工夫については、レポートの所感・要望の内容を整理した。

倫理的配慮として、研究の主旨、プライバシーの保護には十分配慮すること、公表にあたっては個人が特定されないようにすること、調査への参加は自由意思であること、同意後も中断できること、調査協力の有無による成績等への影響、不利益を被ることがないこと、調査結果は本研究以外の目的には用いないことを文書及び口頭で説明し同意を得た。

用語の定義

授業形態：講義・演習・学外演習など授業形態

授業段階：授業形態の段階的な経過

「島しょ保健看護論」の授業概要

授業概要は、30時間(15回)を講義2回、演習13回[学内5回、学外(離島訪問)8回]で実施している。授業段階は、講義、演習、演習、演習の順である。講義の1回目は、島しょの定義と特徴、島しょ県沖縄の特徴として人々の生活環境、保健医療行政、島しょの医療対策・遠隔医療及び救急、離島診療所の支援システムについて、2回目は、島しょの健康問題と看護の役割について教授する。

演習～では、学生3～5人を1グループとして10グループ編成しグループ学習を行う。演習では、沖縄県の1有人離島で実施する演習の訪問離島の担当学習項目について既存資料などを活用し特徴・課題(仮説)を明確に学習計画の立案を行う。演習では、訪問離島での臨地講義の受講及び学習計画に基づく現地踏査を行う。現地では、保健医療福祉行政・保健活動、診療所活動、学校保健活動の実際について、各担当者から臨地講義を受けて学習課題や疑問を確認する。現地踏査では、村内の行政機関、診療所、小学校、他の関係機関、産業、商店、飲食店、村内の集落内の畑、河川など生活環境の視察、地域住民からの生の声を聞くなど訪問離島の把握、情報収集を行う。グループによっては、保健師が実施する保健事業に参加する。演習の離島訪問後の学内報告会では、学生はグループ毎に演習～で得た情報を整理し報告する(表2)。

結果

1. 講義に対する評価

2回の講義に対する学生の評価を舟島らの授業過程評価スケールでみると平均総得点は145点、最小値110点、最大値182点で、下位尺度～の得点は、3.6～4.0点であった。また、平均総得点190点を100%とすると145点は76%、下位尺度の得点5点を100%とすると尺度

表1 舟島らの「授業過程評価スケール-看護学講義用-」の構成内容

下位尺度Ⅰ【講義過程のダイナミックと講義の意義・価値の伝達】8項目	講義の構成やめりはり、および講義の看護学的な意義や有用性の伝達の程度を測定する
下位尺度Ⅱ【学生への対応】6項目	講義中の学生に対する質問方法や学生を尊重する態度など教員の学生への対応程度を測定する
下位尺度Ⅲ【教材の活用・工夫方法】7項目	教材の量や種類、資料の提示時間など、教材の工夫、活用、提示の程度を測定する
下位尺度Ⅳ【具体と抽象の関連と教員意見の絞り込みの程度】5項目	抽象度の高い内容や専門用語をわかりやすく説明しているか、また説明する際に教員個人の見解をどのように絞り込んでいるかなど教員の説明技術の程度を測定する
下位尺度Ⅴ【内容の質と独自性】4項目	講義内容の深さ、新鮮さ、豊富さ、および講義の独自性の程度を測定する
下位尺度Ⅵ【内容の難易度と時間的ゆとり】5項目	講義内容の難易度と学生の期待レベルの一致、および講義の進行速度や講義時間の適切さの程度を測定する
下位尺度Ⅶ【教員の話術】3項目	教員の声の大きさを話し方など講義における話術の巧みさの程度を測定する

表2 島しょ保健看護論 授業概要

授業目的	島しょの定義・特徴を理解し、島しょの人々の生活環境・健康管理のあり方と健康問題の解決に向けた看護の役割を学ぶ。	
授業目標	1. 島しょの生活環境、産業、経済、教育及び保健福祉行政の現状を理解する。 2. 島しょの行政・診療所・学校における健康管理、危機管理の現状を理解する。 3. 島しょにおける看護職者の役割を理解する。	
授業形態	回数(時間)	授業内容及び計画
講義	2(4)	1. 島しょの定義と特徴・島しょ県としての本県の特徴 -1 1) 島しょの人々の健康・生活環境・保健医療行政 2) 沖縄県の島しょの医療対策・遠隔医療及び救急 3) 離島診療所の支援システム 2. 島しょ県としての本県の特徴 -2 島しょにおける健康問題と看護の役割
演習Ⅰ(学内) 事前学習	4(8)	3. 本県指定離島の中で訪問離島の特徴 1) 演習 2) 演習中間報告・離島訪問オリエンテーション 下記の10グループに編成し既存資料等を活用し特徴・課題を明らかにする。 ①地誌、人口動態、②生活と環境、③産業と経済、④学校教育・学校保健活動 ⑤保健医療行政、⑥保健活動(成人・精神)、⑦保健活動(母子)、⑧診療所活動 ⑨福祉、⑩危機管理対策
演習Ⅱ(学外) 離島訪問	8(16)	4. 1) 村役場・医療保健センター・学校など関係機関での講義及び現地踏査 2) 日程 1日目: 講義「学校概要及び学校保健活動について」及び校内見学 小学校校長・養護教諭 講義「村における保健医療福祉行政・保健活動について」 村環境保健課 課長・保健師 現地踏査(ウインド・サーベイ) 2日目: 講義「診療所活動について」 村診療所 医師 現地踏査(徒歩・自転車等)
演習Ⅲ(学内)	1(2)	5. 報告会 各グループで村の事前学習・離島訪問を通して得た情報を総合的にまとめ報告する。

表3 授業過程に対する学生の評価

授業過程評価スケール	最小値	最大値	平均値	標準偏差
総得点	110	182	145.0	17.3
下位尺度Ⅰ【講義過程のダイナミックと講義の意義・価値の伝達】	1	5	3.8	0.4
下位尺度Ⅱ【学生への対応】	1	5	3.6	0.6
下位尺度Ⅲ【教材の活用・工夫方法】	2	5	3.9	0.6
下位尺度Ⅳ【具体と抽象の関連と教員意見の絞り込みの程度】	2	5	3.9	0.6
下位尺度Ⅴ【内容の質と独自性】	2	5	4.0	0.7
下位尺度Ⅵ【内容の難易度と時間的ゆとり】	1	5	3.7	0.7
下位尺度Ⅶ【教員の話術】	3	5	3.7	0.5
下位尺度Ⅰ～Ⅶの平均	2.9	4.8	3.8	0.5

～ は72%～80%の評価であった。

全下位尺度の平均点3.8を上回ったのは、下位尺度「講義過程のダイナミックと講義の意義・価値の伝達」、「教材の活用・工夫方法」、「具体と抽象の関連と教員意見の絞り込みの程度」、「内容の質と独自性」であり、下回ったのは下位尺度「学生への対応」、「内容の難易度と時間的ゆとり」、「教員の話術」であった。7下位尺度の中で尺度の「内容の質と独自性」は最も高く、尺度の「学生への対応」は最も低かった(表3)。

2. 授業目標の評価

37人の学生のレポートから得られた学びの文章は276件で、1人あたり平均7.5件の記述がみられた。学習項目(授業目標)の記述で最も多いのは、「保健活動」の約3割、次いで「島しょの定義・特徴」、「診療所活動」であった。学習項目を授業段階で見ると、演習の離島訪問で約7割、次に講義、演習の事前学習の順であった。講義では、「島しょの定義・特徴」、「保健活動」の順であった。演習では、「保健活動」、「島しょの定義・特徴」、演習では、「保健活動」、「診療所活動」、「学校保健活動」の順に多かった。また、演習

表4 授業段階における個人レポートで「学び」を記述した件数(延件数)

n(%)

	講義	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	計
島しょの定義・特徴	17	4	7	1	29(10.5)
地誌・人口動態	2	2	3	0	7(2.5)
生活と環境	2	3	17	0	22(8.0)
産業と経済	0	1	8	0	9(3.3)
学校保健活動	0	0	25	1	26(9.4)
保健医療福祉行政	2	0	7	0	9(3.3)
保健活動	4	7	60	5	76(27.5)
診療所活動	2	0	26	0	28(10.2)
福祉	1	1	2	0	4(1.4)
危機管理対策	0	0	11	0	11(4.0)
その他	6	4	33	12	55(19.9)
計	38(13.0)	22(8.0)	199(72.1)	19(6.9)	276(100)

*その他は、現地踏査の必要性、訪問離島全体の理解等である。

表5 個人レポートで「学び」を記述した学生数(実数)

	人数	%
島しょの定義・特徴	20	54.0
地誌・人口動態	7	18.9
生活と環境	13	35.1
産業と経済	8	21.6
学校保健活動	13	35.1
保健医療福祉行政	9	24.3
保健活動	26	70.3
診療所活動	19	51.4
福祉	4	10.8
危機管理対策	11	29.7

では、講義、演習と比較して全学習項目に学びの記述があった。その他の項目には、現地踏査の必要性、訪問離島について全体的に理解したなどが記述されていた(表4)。

学生が「学んだ」と述べている学習項目を学生実数で見ると「保健活動」が約7割、「島しょの定義・特徴」、「診療所活動」が約5割、「生活と環境」、「学校保健活動」で約3割5分の順であった(表5)。

3. 今後の授業展開の工夫に対する学生の意見

講義・演習に対する所感・要望をみると、2回の実施した講義に対しては、「演習・離島訪問に向けてとても重要な講義だった」、「島の定義、離島の現状、保健師活動、僻地医療などについて理解できた」、「ビデオなどの教材を使いわかりやすかった」との意見があった。反面、「資料が多すぎるのでまとめてほしい」、「島しょの多い県を視覚的に見せてほしい」との要望もあった。演習では、「事前学習に必要な資料が整いスムーズに

学習ができた」、「学生が主体的に課題を深めることができてよかった」、「資料収集やまともに時間を要した」、「報告書の記載様式の統一があるといい」、「中間報告会の1グループの持ち時間が短い」などの声があった。演習では、「島で直接担当者から講義を受けたり、現地踏査を通して学びを深めることができた」があげられ、要望として「学校保健活動を全員で参加できるようにしてほしい」、「診療所の看護活動も聞きたい」、「1泊2日の離島訪問ではゆとりがないため2泊3日にしてほしい」などがあった。演習では、「報告会の1グループ当たりの発表時間が短いため事前に資料の配布をしてほしい」、「媒体の効果的な活用による発表方法をしてほしい」などの要望があった(表6)。

考察

1. 講義に対する評価

「島しょ保健看護論」の2回の講義に対する学生の評価は、平均総得点及び7つの下位尺度の平均は約8割弱

表6 講義・演習に対する所感・要望

	所感	要望
1. 講義	<ul style="list-style-type: none"> ・演習・離島訪問に向けてとても重要な講義だった ・島の定義、離島の現状、保健師活動、僻地医療などについて理解できた ・パワーポイント、プリント、ビデオなどの教材を使いわかりやすかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が多すぎるのでまとめてほしい ・島しょの多い県を視覚的に見せてほしい
2. 演習		
1) 演習 I (事前学習)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に資料が準備されスムーズに演習することができた ・グループで話し合いながら自分達で調べたり仮説を立てるなど興味をもって演習ができた ・授業時間内に演習時間があり皆で集まる時間がつくりやすかった ・各グループの発表を聞くことで事前に村のことが学べた。また、自分達のテーマを探めることができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集めやまとめに時間がかかった ・報告書の書式の統一、昨年の例を提示してほしい。 ・中間報告会の1フルール発表の時間が短い、授業時間外で時間をとってほしい
2) 演習 II (離島訪問)	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭より直接、本島の学校と伊江村特有のことが聞けてよかった ・大学で学校保健の授業をとってないが実際の現場が見れてよかった ・村保健師の話より離島の具体的な保健活動について理解できた ・住民の健康問題や実際の保健活動について知ることができた ・診療所医師の話がわかりやすく離島の医療の大変さなどがよくわかった ・住民の声を聞く、色々な視点でみること(現地踏査)で離島の特徴を知った ・住民と実際に話したりすることでテキストでは分からないことを感じた。非常に良かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健は人数制限があり参加できなかった。せつかくの機会なので全員参加できるようにしてほしい ・保健活動の講義内容が豊富であったが、手元に資料があるとよかった ・講義だけでなく実際の保健活動が見れたグループと見れないグループがあった。 ・診療所の看護師の話聞きかたかった ・実際の診療風景も見かけた ・時間に追われゆとりをもって行動できなかった。もう少し自由な時間がほしい(2泊3日程度あるといい)
3) 演習 III (報告会)	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループが調べたことが明らかになり伊江村のことがより詳しく理解できたのですごくよかった ・中間報告会で疑問に思ったことが解消され、伊江島の全体像がよりはっきりみえてきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し時間をとり、フォトボイスの説明をしてほしい ・スピーデイでよかったが口答のみでは順に残らないので発表方法を工夫してほしい ・事前に報告資料を配布してほしい

で講義の質を保持していることがわかった。その中でも、「講義過程のダイナミックと講義の意義・価値の伝達」、「教材の活用・工夫」、「具体と抽象の関連と教員意見の絞り込みの程度」、「内容の質と独自性」に関して、学生はほぼ適切であると感じている。これに対して学生は「学生への対応」、「内容の難易度と時間的ゆとり」、「教員の話術」に関してあまり十分ではないと感じている。特に、「学生への対応」における質問項目得点で<教員は学生の発言内容を取り上げて講義を進めていた>、<学生への質問のタイミングや方法は適切であった>の

項目が下位尺度の平均得点より低かった。また、「内容の難易度と時間的ゆとり」においては<講義の進み方は速すぎることも遅すぎることもなかった>、「教員の話術」においては<教員の話す速度は速すぎることも遅すぎることもなかった>の項目が各下位尺度の平均得点より低かった。このことは、一般的に講義は一教員が大勢の学生を対象とするため、一方的な知識の注入教育に偏りやすき欠点³⁾を反映している。次回からは、学生が発言できる機会を増やし一方的な展開にならないようにする。また、講義の進め方、話す速度は学生が講義を十

分理解できる速度に改善する必要がある。

講義全般については、学生の所感から、「演習・離島訪問に向けて重要な講義だった」、「島の定義、離島の現状、保健師活動、僻地医療などについて理解できた」と記述していたことから、講義は教室内における原基的な授業形態であり、学生にとって演習・実習に必要不可欠な概念や知識を効率的に獲得する機会⁴⁾となっていることがわかった。

2. 授業評価と課題

レポート「島しょ保健看護論を終えて 講義・演習・学外演習（離島訪問）」の学びから学習項目（授業目標）を分析した結果、「保健活動」については約7割の学生が学んでいるが他の項目は5割～1割と低率であった。特に「保健活動」、「診療所活動」は全員が現地で担当者から講義を受講しているが学びに差がみられたことは、現地での受講への動機づけが十分ではなかったことが推察される。また、「学校保健活動」については、今回、現地の受け入れ体制により約半数の学生のみが受講したことが影響していると考えられる。「福祉」、「地誌・人口動態」、「産業と経済」、「保健医療福祉行政」等低率の項目は、事前学習の担当学生が主として学びを記述した傾向がある。このことより分担以外の項目も広い視野で総合的に学ぶことの重要性を動機づける必要がある。

全学びを授業段階（講義・演習～）でみると講義、演習（事前学習・中間報告会・離島訪問オリエンテーション）、演習（報告会）では、一割弱から二割弱である反面、演習（離島訪問）では7割で学生1人当たり約5件を記述していた。このことは、講義、事前学習で得た知識をもとに、演習の学外演習（離島訪問）で実際に担当者から講義を聴く、直接、学生が主体的に現地踏査を行う実践的な体験からの学びが大きいことを示している。つまり、授業目標達成のために教育の意義や内容との関連で最適な授業形態を選択する⁵⁾ことは効果的であることを意味づけている。

学内報告会では講義・演習・学外演習での学びの統合化を目指しているが、報告会での学びの記述が少ないことよりその意図を果たしてないことが判明した。そのことは、報告会への要望で「もう少し時間をとってほしい」、「口答のみでは頭に残らない」、「事前に報告資料を配付してほしい」などの声があったことより報告会の発表方法が十分ではなかったことが伺える。今後は、発表時間、方法等を十分検討する必要がある。

今後、本授業をさらに充実するために、今回の結果を踏まえ各段階の授業展開を工夫するとともに、本授業目標と他の地域保健看護の科目目標との関連性を確認し授業の質向上に努めたい。

研究の限界と課題

授業過程評価スケールを用いる際には、教育目的・目標や受講学生の特徴が異なる科目の講義と比較、解釈してはならない⁶⁾ことより当科目の講義を先行文献と比較ができない限界があった。また、今回の評価は、当科目の講義の終了後に実施し講義進行途上の改善には活用できなかった。今後は、多様な方法による形成的評価を導入しその場における授業改善を行う必要がある。

引用文献

- 1) 安岡高志，他：授業を変えれば大学は変わる（第1版），pp35，東京，プレジデント社，1999.
- 2) 舟島なをみ，他：看護学教育評価論 - 質の高い自己点検・評価の実現，pp30，東京，文光堂，2000.
- 3) 杉森みど里：看護教育学，第3版，pp184，東京，医学書院，1999.
- 4) 前掲書3)，pp184.
- 5) 前掲書3)，pp185.
- 6) 前掲書2)，pp37.

The Course Evaluation of Nursing and Health Care in the Remote Islands - Through Classroom Learning and Clinical Practices at the Islands -

Michiko KAWASAKI, R.N., P.H.N., M.N.,¹⁾ Fumiko MIYAJI, R.N., P.H.N., Ph.D,⁰ Shinobu MAKIUCHI, R.N., P.H.N., M.N.,¹⁾ Masako WATANABE R.N., P.H.N., B.N.¹⁾

Abstract

The purpose of this research was to evaluate the class and to make improvement of the classroom learning of Nursing and Health Care in the Remote Islands.

The thirty seven senior students who studied this course were chosen by the research. The students' consent on research project were obtained.

[Method]

Students classroom evaluation scale, content analysis of students' individual reports were used for the research. The thirty three students responded to classroom evaluation scale and the individual records of thirty seven students were used for content analysis.

The classroom teaching started from "the Introduction of the Nursing and Health Care in the Remote islands", "Practice I", and advanced to the last level, "Practice III".

[Results]

The total average score and the average scores of seven subscales were less than 80%.

"The Introduction of the Course" was helpful for learning "Health Care Activity", "Definiton and Feature of Remote Island", and " Clinical Activity", respectively. The seventy percent of the students reported that they learnt about Health Care Activities, Islands Health Care Characteristics of the areas, and Medical Care through clinical practic at the islands. It takes time to get the whole understanding of the Health Care Practices of the ilands.

In order to enhance the students' learning on "the Nursing and Health Care of the Remote Islands Course", step-wise advancement within the course need to be reexamined and related courses on Community Health Care and Nursing should be considered.

Key Words : Course evalustin of "Nursing and Healthe Care in the Remote Islands", Classsroom teaching, Stepwise advancement, Practice at remote islands,

1) Okinawa Prefectural College of Nursing